

船舶事故調査報告書

平成28年5月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|----------------------------------|--|
| 事故種類 | 衝突 |
| 発生日時 | 平成27年12月5日 18時42分ごろ |
| 発生場所 | 京浜港京浜運河 東京十三号地船舶通航信号所から真方位290° 1,800m付近 (概位 北緯35°37.6′ 東経139°45.2′) |
| 事故の概要 | プレジャーボート ^{リッキー} Rikkyは、北進中、係留中の台船 D-73 に衝突した。 Rikky は、同乗していた知人3人が負傷し、船首部に破損等を生じた。 |
| 事故調査の経過 | 平成27年12月7日、調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み |
| 事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 | A 台船 D-73、不詳 なし、株式会社縄定 B プレジャーボート Rikky、5トン未満（長さ7.12m） 235-38673 東京、個人所有 |
| 乗組員等に関する情報 | B 船長B、一級小型 |
| 負傷者 | B 軽傷 3人（同乗者） |
| 損傷 | A なし B 船首部に破損、錨に曲損 |
| 気象・海象 | 気象：天気 晴れ、風向 南南西、風速 約0.5m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期 |
| 事故の経過 | A 船は、京浜運河に面した品川ふ頭西岸の係船杭に係留された他の台船の京浜運河側に接舷していた。 B 船は、遊走の目的で、京浜運河を南進し、船長Bが、品川ふ頭西岸に1列ないし2列で係留されている複数の台船と共にA船を認めた。 B 船は、A船を左舷に見て通過した後、西進して高浜運河に入り、同運河を南進した後、目黒川を東進して京浜運河に戻り、北進を始めた。 B 船は、京浜運河を北進する旅客船に続いて、その右舷後方を航行していたところ、船長Bが、船首方至近にA船の船影を視認したが、どうすることもできず、A船と衝突した。 船長Bは、本事故時、複数の台船を右舷方に見て通過した後だったことから、南進した際に認めた係留中の台船を全て通過し終わり、船首方に障害となるものはないと思っていた。 |

| | |
|-----------|--|
| | <p>船長Bは、操舵室にいた同乗者との会話に夢中になって船首方をよく見ていなかった。</p> |
| 分析 | <p>B船は、京浜運河を北進中、船長Bが、複数の台船を右舷方に見て通過し、係留されていた台船を全て通過して船首方には障害となるものはないものと思い、同乗者と会話して船首方の見張りを適切に行っていなかったことから、係留中のA船に向かって航行していることに気付かなかったものと考えられる。</p> |
| 原因 | <p>本事故は、夜間、B船の船長Bが、船首方の見張りを適切に行っていなかったため、係留中のA船に気付かず、A船に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p> |
| 参考 | <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 常時適切な見張りを行うこと。 |